

西南学院小学校 学校長メッセージ

「学校通信 Wings 2024 年 11 月号」

「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。

テサロニケの信徒への手紙Ⅰ 5章16～18節」

小学校の教師となったわたしにとって、子どもたちが授業を通して、また学校での活動や行事を通して、新たなものの見方や考え方を得て成長していく姿を見ることは、何よりの喜びでした。

現在、子どもたちの前に立って授業をするということが殆ど無くなり、何かを語れるのがチャペルの時間だけとなりました。そのことをとても寂しく感じていたのが正直なところ。また私がチャペルでメッセージをしてよいのだろうかという不安もありました。

三十数年前、未信者だった私に贈られた聖書に、「聖書は、生きています。その時その時あなたに語りかけるみ言葉がきっとあるはずです。」という言葉が添えられていました。その言葉通り、チャペルでメッセージをするにあたり、子どもたちの顔を思い浮かべながら、学校での出来事を思い浮かべながら祈り、命あるみ言葉をもとに、他の人からの借り物ではなく、今私が神様から与えられたことを子どもたちに語っていこうと決めました。それが本当にできるのかどうか、初めは分かりませんでした。メッセージの準備に十分に時間をかけることができなくなった時も、突然メッセージをしなければならなくなった時も、不思議に語る事が与えられました。その体験を繰り返すたびに、そして子どもたちの前に立って神様のことを語るたびに、「大丈夫。恐れるな、たじろぐな。主にあっていつも喜んでいなさい。」と私自身が励まされて力を与えられ、生かされていることを実感することができました。

幼い子どもたちと共に過ごすチャペルは、まさに喜びが与えられる時です。本当に幼ければ幼いほど、神様の愛を受け入れることができるその素直さに、大人である私の方が教えられています。すべての子どもたちが神様の愛に触れ、一人ひとりが愛されているかけがえのない存在なのだ実感し、喜びを持って力強く歩いていくことを願わずにはられません。

子どもたちが、どのように変容し成長したのか、今はその足跡をすぐに見ることは難しいのですが、蒔かれたみ言葉の種が、これからそれぞれ遣わされた場所で豊かに成長し、やがて神様の愛の光を放つことを信じて今日も祈りたいと思います。

さて、「少女パレアナ」(エレナポーター著 村岡花子訳 角川文庫)をご存じでしょうか。昔、テレビのアニメでも放送されていたので、ご存じの方も多いのではないかと思います。牧師の家庭に育ち、孤児となった幼い少女パレアナ。気難しく頑なな叔母に引き取られ冷たくされるのですが、その明るさと素直さは、やがて周囲の人たちの心を溶かします。そして、どんなにつらい境遇でも、そこから何か喜びを見つけるというゲームは村中に広がり、人々の心を結びつけていきます…胸が熱くなり、力と喜びが与えられる児童文学作品です。この喜びを見つけるゲームが「いつも喜んでいなさい…」のみ言葉と繋がっていることに気づかれた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

いつも喜び、すべての事について感謝する…そんなことできるはずがないと普通は思うところです。パレアナの心も揺らぐことがあります。しかし、一見喜べないと思われることを喜び、神様に感謝するところから、光が差ししてくることに気づかされます。いつも喜び、絶えず祈り、すべての事を感謝するというのは、神様の愛が分かっているからこそ、全幅の信頼を神様に持っているからこそできるものなのだ納得できるのです。

私たち一人ひとり、神様の目には、高価で尊いものと聖書に記されています。だからこそ、神様が私たちを放っておくはずはないのです。

皆様の毎日がたくさんの喜びでいっぱい溢れますようお祈りしています。

(文責 黒木佐幸)